

虐待研究
報告書

虐待の“密室”を 開けていく

虐待のない社会を実現するテクノロジー

- I. 虐待のメカニズムと意識の仕組み
- II. 虐待の密室を開けていく
- III. 性的虐待
- IV. 虐待に苦しめられているのは小さな子どもだけではない
- V. 理解という全く新しいアプローチ(実践)
- VI. 虐待のない社会づくりのためにできること

Index

はじめに

I 虐待のメカニズムと意識の仕組み 05

II 虐待の“密室”を開けていく 11

ケース1【虐待された側の実証事例】

『母、私、娘、三代にわたる心の傷が原因』

ケース2【虐待した側の実証事例】

『子どもへの教育がエスカレート 親の劣等感が子どもへの虐待を誘発』

ケース3【躰という名の虐待～親子の関係性に見えた衝撃の事実～】

『躰と虐待の境界線 ～私が悪い子だから…という思考が更に虐待を引きつけていた』

III 性的虐待 33

ケース4【被害者が自ら“加害者”を理解し、終わらせていく】

『被害者である彼女が“加害者とは何か”を完全に理解した時、虐待のない社会が見えた』

性的虐待および性に関するディスカッション

IV 虐待に苦しめられているのは小さな子どもだけではない 43

ケース5【虐待の種を摘み取らないと、大人になっても様々な人間関係で続いていく】

何度 転職しても繰り返す上司からの虐待

虐待の傷が自分の結婚生活や子どもの人生までも脅かしていた
～大元の原因が解ったら、そこを理解するだけで人生はまるごと変えられる

高齢者の虐待 介護の現場からケアマネジャーの報告
～介護のプロが新しい“視点”を持って関わることで虐待防止に繋がっている

V 理解という全く新しいアプローチ(実践) 53

VI 虐待のない社会づくりのためにできること 59

おわりに

はじめに

子どもの虐待事件があとを絶ちません。その多くは、子どもを守り育てる場であるはずの家庭で発生し、子どもの親が虐待の加害者となっております。厚生労働省の発表によると、2018年度中に全国の児童相談所が児童虐待相談として対応した件数は15万件を超え、これまでで最多の件数となりました。また2017年4月から翌年3月31日までに虐待死した子どもは、心中による虐待死を含めると65人で、0歳児が約半数を占めています。子どもの虐待に関する統計が初めて取られた1990年から30年近い時間経過があったとはいえ、通告件数が150倍以上にも及ぶ増加は異常事態としか言えません。

虐待は密室で行われることが多く、個人情報保護法のことからも他者の介入が難しい上に、被虐待者の子どもから届け出が出されることが少ないことから、実際の件数は報告よりもはるかに多いと言われています。また、虐待の起こるような家庭では、配偶者などパートナーに対する暴力(DV)も同時に行われていることが多く、親子共に逃げ場を失い堪え忍んでいるというケースも少なくありません。

そして、虐待を受けた子どもの心の傷は大人になっても深く残ります。虐待する親が、自分も被虐待者だったという「虐待の連鎖」も、この問題が終わらない大きな要因になっているのです。

虐待から子どもを守るために国は新たな対策として2020年4月から「児童の躰に際して体罰を加えてはならない」という体罰禁止を盛り込んだ虐待防止法を施行することを決定しました。しかし、親の衝動的な怒りや暴力を取り締まることで虐待が予防できるのだろうか、更に隠そうとするのではないか、抑制することで逆に親のストレスが溜まり虐待行為を助長させてしまうのではないか等、懸念する声も聞こえてきます。

児童相談所や警察への相談や通報による家庭訪問、一時的な保護、親子の引き離し、親権制限ほか、子どもの安全を守るために様々な対策が取られていますが、この難題にどう立ち向かっていけばよいのかわからないというのが社会の実状ではないでしょうか。

私どもでは日頃より様々な社会課題に対し、再発しない根源的な解決法を発信しています。

その解決法とは、人間を悩ませる事象をつくり出す「仕組み」を解き明かした「全く新しい知性のテクノロジー」であり、長年にわたる研究と実績のもとに、誰もが理解し、体験できるよう体系化したMIRISSシステムという実践法です。問題（事象）の渦中にいる人物が、自分自身をこのテクノロジーによってシステムにあてはめることで、事象の真実を理解し、自分を理解し、自分を過去の延長線上から外し、「なぜ?」「どうしたら?」の答えを自分の中に見つけていくことができるのです。

問題と闘う必要性もなくなり、解決策を探し求めることも、相手や状況を変えようとすることもなく、自らの『理解』でスムーズに現実を変えていくことができます。

『理解』することで、自分も、大切な人たちも救うことができる画期的な解決法（実践法）であり、更には一つの問題をきっかけに、人生が上手くいかない大元の原因までも理解できるため、生きていく上で起こり得る問題を未然に防ぐ予防学としても役立てることができるのです。

今回は虐待をテーマに、普段から直接、この問題に接している弊社研究員たちの研究報告と併せて、根源的な解決法および未然に防ぐ予防学として、MIRROSSシステムという全く新しい思考テクノロジーを用いた独自の視点から提言いたします。

この研究報告書が、全国の虐待に対応する方々の一助となり、子どもやその家族の支援に少しでも役立つことを願っています。

※研究目的

虐待の根源的な解決と、予防に関する取組を向上させるため、実証事例に基づき、虐待の特徴、メカニズムをまとめ、加害者・被害者をつくらず、虐待のない社会づくりを支援することを目的とする。

※研究対象

2007年～2019年12月に報告された虐待の実証事例および、弊社研究員の報告

※研究方法

MIRROSSシステムによる虐待の関係性および、虐待者・被虐待者の解体

虐待研究報告書

I

虐待のメカニズムと 意識の仕組み

虐待の種類は主に、肉体的、心的、性的、ネグレストがあります。子育てのストレス、離婚などによる家庭崩壊、経済的困窮など、様々な要因が複雑に絡み合っており、起きているため非常に解決の難しい問題とされています。

また加害者の生い立ちや家族関係などから、育った家庭に要因があることは分かっていますが、父親に暴力を振るわれたから、母親が酷い過干渉だったからと言っても、解決には至りません。

しかし、MIRROSSシステムで「虐待」という事象の中心にいる人物や、その家族の人生を紐解いていくことで見えてくる「家族のストーリー」が、虐待の種を摘む重要な鍵になってくるのです。

図一【虐待の解体図】をご覧ください。

虐待という事象の水面下には、その家系に代々引き継がれるパターンがあり、さらにその奥には、大元の原因となる『虐待の種』が隠れています。

『家系のパターン』とは、例えば、虐待を受けた子が親になつた時、自分も我が子に虐待をしてしまうという「関係

性や行動のパターン」だけではなく、そういう行動に及んでしまう「思考パターン」を代々持ち続けているということを指します。

目の前の物事を「どう受け止め」「どう判断し」「どう決断したか」その思考そのものが親から子に受け継がれているということなのです。

更にその奥を解体していくと、そのパターンをつくり出した大元の原因が明らかになってきます。虐待の種類、家庭環境などシチュエーションは違っていても、大体どのケースにも共通していることがあるのです。

それは、その家系の超えるべきテーマとして受け継がれている要素でもあり、代々引き継がれてきた思考パターンによつてつくられた「間違つた自己イメージ」であり、これが『虐待の種』になつていなのです。

おわりに

いつ誰に何が起きてもおかしくない時代。事件や事故など予期せぬことに巻き込まれる場合もあれば、自分自身が知らず知らずのうちに加害者となりうることもある…本当に一寸先は、どうなるかわかりません。言い換えると、絶対的な保障など何処にもない社会で、人間は常に自らの力ではどうにもならない事と隣り合わせに生きているということです。

今回は「虐待」をテーマに取り上げましたが、なぜこういう事が起きたのか、どうしてこんな被害を受けなければならなかったのか？その仕組みさえ解明できれば、全てを悲劇で終わらせることもなく、皆で社会を変えていけるのです。

私どもが長年研究を進めているMIRROSSは、すべての事象の中心にいる人間そのものに着目し実証を重ねています。人間が、その命を形成するときに避けて通ることができない父と母、いわゆる「真逆のエネルギーが同時に一つの肉体に存在する」という事実を、新たな視点からシステムで理解すると、全く新しい思考様式が動き出します。

このシンフルなシステムは、今回ご報告した虐待のみならず、これまで多くの人々に驚くべき結果をもたらしてきました。夫婦や家族のことであろうが、会社の経営、人間関係、健康問題であろうが、たった一つのシステムにあてはめることで、事象の真実を理解し、自分を理解し、自分を過去の延長線上から外し、人生そのものに初期化、再生を促すのです。

新しい視点から見ると、この人間社会には、関係性という秩序だった法則が存在すると解ります。しかし、従来の思考が作り出した、幸せと不幸というような二極に分かれる関係性は、ダメなものを良くしようとプラス思考に傾き、せつかくの秩序だった法則に目隠しをするばかりか、頑張れば頑張るほど望む答えが手に入らない、答えも出口も見えない方向に進むような「仕組み」になっていたのです。

MIRROSSは、分離を認識し、二極を一瞬で融合させるシステムです。日本人がもともと持っていた「受け入れる」という知性を、テクノロジーとして具現化し日常生活に活かしています。MIRROSSの出現で、当事者が自ら

の力で危機的状況から脱出することも、また、先祖代々から続くパターンを終わらせることも、更には、これまで全く気付いていなかった能力を開花させ、人生そのものに変容を起こすことも可能になった：しかも、何の変哲もないごくごく普通の日常の中で。

世界を蘇らせる方法とは、決して人間社会を何かの力で支配したり、大上段に構えたりするものではありませんでした。人間は今、本当の意味で進化を遂げ、新しい文明を創り直す必要性に迫られています。

より良い社会を創るのは、一人ひとりの人間です。一人ひとりの人間が尊厳を取り戻し本当の自分を手に入れた時、社会はおのずと平和な楽園にしかない、私たちは、そう確信しています。

MIROSS
Special

虐待研究報告書

虐待の「密室」を開けていく
虐待のない社会を実現するテクノロジー

発行日

2020年4月5日

著者・編集

株式会社ミロス・インスティテュート

発行・販売

株式会社ミロス・インスティテュート

兵庫県神戸市中央区磯上通7-1-5

三宮プラザEAST 10階

企画協力

M I R O S S L a b . 研究員

